へ 遺13
1942

1942

十返舍一九作
五湖亭貞景画

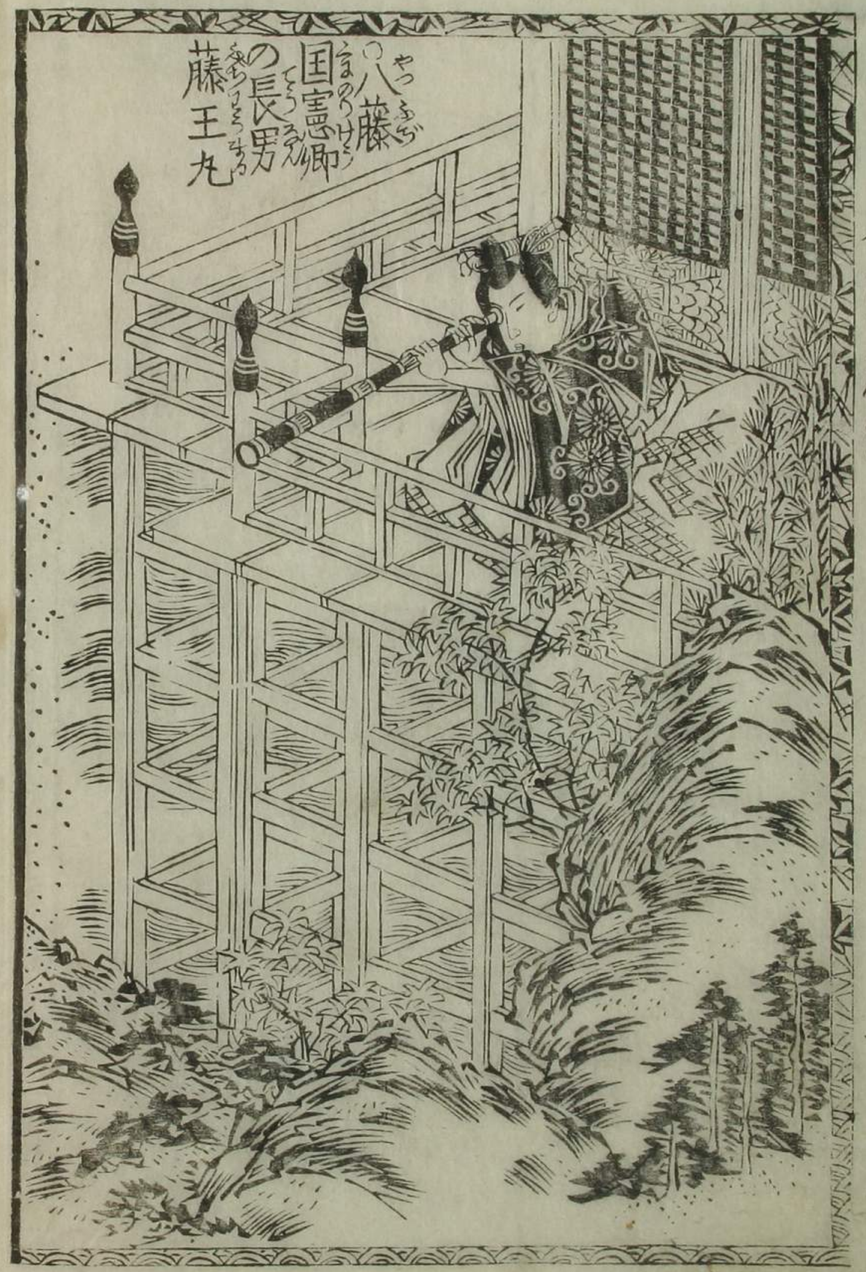
全部

王傳記 前篇

癸巳孟春
新板發行 仙鶴堂上梓

一之巻

霞ちらめく四方は海ふ藤浪の波もたゝで治る御代を
万歳の亀戸の神前ふ盛り爭ふ藤いちゝえ。
於藤ゞ楊枝ふ至るまで江都の自慢や此系の
所縁色濃き繪冊子ふ。うゝ一種ふ藤王傳
記ハ外題ふあるえハ色の草子興きゝ譚も塗笠立
あやまゞ楠ふる原かいちゝゞ大津の宮れ時代よ
あゝゝとゐるハふえの花房ハ長物語と六冊全備
ふ絡れとらふも孫ふ縁あゝはるゑゞ需ゆふ紋も等
形の孫ハ丸いかの刺貫ふたけのふハ孫れ姓の發起と操合て著ま
天保 壬辰季春脱稿
四癸巳孟春發兌 十返舍一九誌


八藤
国憲卿
の長男
藤王丸

鵠凌雲斎の愛女逢瀬
緑蔓攘陰
紫袖
低
客来留堂
小堂
西
石山鸚鵡渓の霊鳥

鵬鷹
凌雲斎
藤王丸
後八藤
大納言
国隆卿
再出
紀山人国因
立枝太郎持定の愛妾安豊機
世の中を
渡と
あれの
人さうろと
教訓亭
後八藤
大納言
国憲卿
の北の方

ゆうさん こうの人こうう百二代ごさるそのゝ
ねんこよおろしめきちゆうろくの
ゝかところとよたゞまのくふこちおうと
のちさゞとらくゝ人おりそのくふこゞめ
あくゞとこゝてらるこゞゝひくうこゞん
ゝりけるゝいゆるきゆうとくゞらん
ゝゝりくゝみくこをゆうめくこるゞつひよ
あゝ田とうくゝらんのこめよゝあくふ
さまこたくゝとゝつゝふるをたゞくふ
あゝせをこうけかゝこえむゝれゝり
けるまつひよあまくゝのゞんせいこうくまこ
のちさゞこもちあゝせゝゝばちうめへよ
ゞくゝ今ゝれゝあさまりゝくこうよめへ
そむくゝのるゝゝこくよゝみめくゝち
そゝめよとよけゝこゝとくゝみめくゝち
うくゝくゝたゞひもくゝるきたをやめ
ゝりのゝちさゞこゝよゝれゝまそかりゝゝと紀
ふくゝちゆうゝゝゝゝ一人のをとこの
ゝゝこゝゝうけゝうゝゝゝゝゝゝさきのたゝうひよ
そのゝのゝくゝゝをゝくゝゝたゞとゝよゝたゝこを
そゝりこゝゝゝゝゝゝゝゝてみゝゝゝゝゝゝゝゝ

「ありがもようるぬそのあらこ
ちさこ〜めへんろをせんとにいござけうもこふよるこさこ〜の
別よとこそいたこうこ〜の
みやこのこちのるぐ〜ひ〜じゃ
でいござりませぬり
とそあやこ〜ひろ〜ぐ
よころいきこ〜ん
なめ〜もるいのをこめんるされて
ぐざこり
ます

「ふぢ
コ〜ン
日ごろより
ぐ〜こえ〜ま〜う
ろ〜きこ〜ま〜ん〜ば〜ぐ〜ろ〜ぐ
この〜ぐ〜
どれかかんーを
しそれ〜このぐ〜ぬう

「だでさんやこういさへのこうもウかんゆんしとあめり
「おのれをこうまでだ大のこうばこうしめ志のこの

あらざれがきあんどまろの人をば
ちそこそこ
そこそこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちうごくあらうへの
みぐれまたろー
るふうる
うけとりてるうあらさめて
うるづ死ぬひいうふも
このまるみある
うへ
まぐうづうも
あらぬこうらいがみの
ゆきうろあてありはるろり
きそもかろ死ぬのるれいむひこ
えんるけれどもそこさいらこづ
そうるいがあくあてありーら
さるふそもまづーきくーの
そのるろふくのーくもうるみを
ゆりそぐてせるのぐさんと
えろう女るぐらゆちうきの
そこてぐんーいうこいらがれれよ
ありやよあ死ろうよちくよりねと
よべいとうまてけるいふなてごぜあんる
ゆういひーとるまぐるぐうよりそへ

やつこまぐさるのきさのうさめて
ちうーまさべまうーあげくの
ねがひのすぢいさのつみへ
けまうはまくてめてまうりまーる
あとりつぎを
ねがひ
あげ
まて
ゆきうろ丸
そもがこれまで
ゆりそぐてそ
ゴトいが
ありろ
まく
ーま
ゆる
今
れ
ゆ
さ
く
あて
とろ
アー
その
ゆ
あやせのまさめくを
つるぎうらふと
山の井の
るきべき
あるーと
たづれあさるひ系を
さーるひ系を
そのまうるさいらくをぐ
とよさされぜんか

つゞき そのまゝひざまづきあげよろづよのときをまちあるるゝらべあまくこの人ゐかーづれあやめ丸をもまちどふべたゞとあるふかひるたひらけのすまひあるもりぶせたたりぬゞ反ありらけさえよやつまてるふびんのものやとたろうもそよそそそでるあのびねのかとてぎをゆいあうゑくてちをたくたろうるきまろむかくてあるべをふあらざれがゆくぎゑむりひのくまうやそうこまとありてとのこをべーるれどもようゆものこをべーるれどもときるはいちごをゆくたりことてろまちもせずこいとろうぶんのりょうふせよとそつがねよさーづーてのくをくるこるひあをきをやくそくーしてつきぬるでいも今ちくふおりねいときつくむつのるつきそのくるれちをまーうとりくをそでひとそいくるれちをまーうとりくをそでつをときさしいまるりちまこの牛ごちゆてうをづとうるいこいよりのいさをよりうやゆをづりーとたゆきうろとせうこのつるきをうゆ六十六ぶるりけるをこゞかとうとるりとりあれせーこそおそろーけま

鳳卵杯

唐の玄宗帝重宝

龍神ゆ与ゆ其の後天台山の宝庫ゆ秘ありしを

傳教大師入唐の

これ是を得て

桓武

天皇へ

上る後ゆ

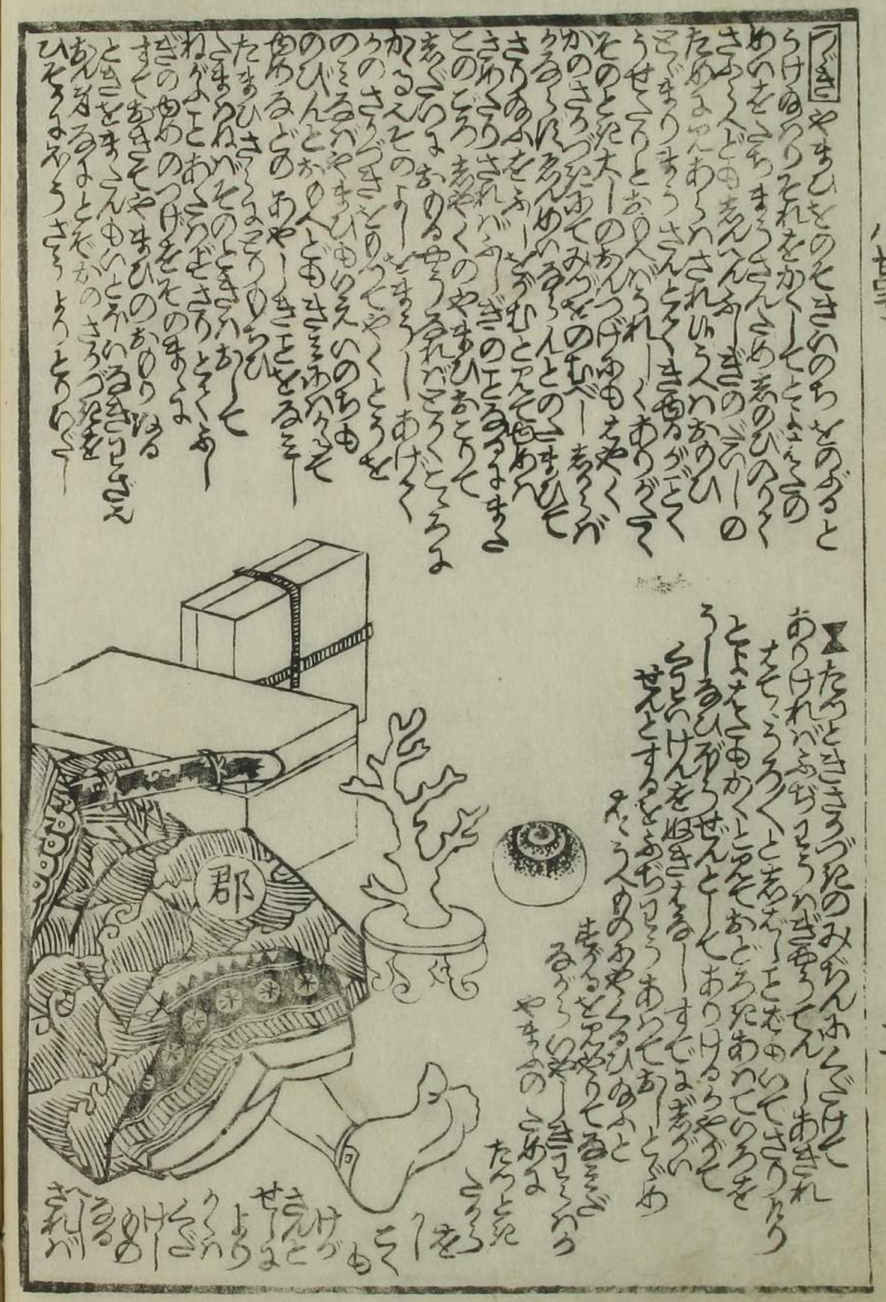
の家今のハッ

長く伝へて宝器とも

豊機の方梦物語の図

○さてもとよとみこのくにのりまぢかうぶるゆめのもとにたけもちをさくひんくのるろよあひるりとーなりひるくーしをいろーくいろいそれゆつけもふぢうとうがきあくあくさゆのねくまーくてのゆもーそかれくをもどをみつけのぐーたちもちよあとーうーをひてうろ子をひたいれんてをもぐるとんまれおちんべけるうふとひとりのいろりどをゆひつきあるとたあぢこうるゆのうさやうこくいふりぎのゆりをえうもそのゆあゆ大さゆるるゆふひとりのでやうでをうよりひとゆのこをぬすそのでーあげきーんとまるとうろをいとけどうたまりけわーうれんとゆんぢいるるよのこめゆやうらんさあをぬすけゆうけゆうこれいでんげうー大ーんこのこうらいとうけゆうりて大せうるるきぶつくやちひあるとをいこーづきゆもみうとのろがたゆまるちーゆいゆるるゆうくーめさるくせんれいあどをれのてこれいるうらめさるくせんれいあとよをこのゆうつたあやくのるをこありもとれとあるべーけさうづたのいとくるくーでいそのやをのひちをべうるゆ

されば天ぐちが好すをさくーんとゆうもゆんでこれをあさへんやとてあそとりのどーてゆふなどあゆ大ーのゆ支ーよきまつたされいこれがーれ人のゆのちをうそゆるゆをよすめーんめいつきやまひのあよとや


郡

風呂敷
小児五丹の妙薬
たまごこまり
茶幼散
牛込あさんま町
兵衛川製

「ごきげんよう」

「そもそもうらんたのをやぶりしとき
ときこれ
やまもうあ
いちごの下
ハテ
けり
うあ
ヒ
ゆ
みア

「みな
ことてら
身のあや
まるもう
そ
ぶ
ゆ
ま
ま
ま

坂本氏

郡

○豐機雜雀くれも傾城の打掛と
変り相撲郡太い封間とる
藻屑波い老枚板と
化る

はたん

ゆく
ゆくらうゆくも
海のうへ
ゆくらんの
ゆくへ
果てるを

八葉藤王傳記

全六冊

癸巳春

下

八犬傳

芳流閣

一九作　歌川国芳画

東都　鶴屋喜右衛門　板

「つぎき」まゐろうちかくごあれとのひらけてめろるぶらをふりくぐをばかのうつくしきむすめゆゑことこらひ大さのゐんのとよたことさろをあんせて毒ろをるやきーあうきそうせんとさるるるさろらぐれたの

「きんねんハゆもすれバをんちよつよいめがぐさぢのうんぬりどろこいゆうぬいられいあくち

あくゆんはろわれこころたぐーれろこりぎここをころさんとんのとあくーかくご

せとうやくとらひんくゐあけのめをそをうのとりてあくこうみさきるるえきのえぐをりうくゆふぢうこうをうーろうよろんどこうをけりうてのめのどもこれををとこいさよくーれかをめの刃ぢさまくこぐろいきもちとーされのれーそゆいちそれうれどあのれををんぢことくせんやうされうけよとのひるぐくあゆうよりむくうりかるゆうをあっとりれちひーぎうこびとをんるぐれいさくうひすぐこやさーきをこをよさらのををこをよさらえぎきこをうこるをちくーとらどこれかくこあきくこのひとぐいひとりのあとあをあひてふーくちくくをつくーくこをこりけどもあんべんちれのんやうこざるあうひいろこれるれこよされ

㊀せとあるぐりひとをめるあくいつのだいらん大あくーとりあんこのるロ　あんえろけのぐぢんのあるね女め　ちめてあるべいあいーこと

㊁ちとうをうのきのさ　ちうちとむ　ぐうれやかせ　のきうん

郡
国
紀

豊
井

駒形山
鬼神ケ流
たけさちのあさごろうたゞるあんびやうを
うるうしくくのぐをたゞおらきやう
しとかこゝふいのるところ

たゞうりとこてらくしろしぐさよ
なをゝまとのこゝろ子
るるもゝころとこゝろえ
らゐのりきをこをたゞうりくやう
しとゝうしゝるよ
すぞよらゐのり
ひやうしゝろうせ
とひろうせう
うがかくのねぐひの
とゝりやこゝの
四たこゝろよ
かゐせうけゝられ
らうんねをこゝで
ぬひけれいその
をひこひたくく
ゝうぐをあうけと
しとさうんぐのしゝるよ
ゆゝしきゐゐゝ
たくきゝうんゐをけゞ
らものうんのゝりし
ことその弟もうゝそかそ
ろしくつこゝふゝと
ありひゝうゝがよゝうづのかを
ゝるゝの表四ごゐ寿よ
四ゐゐるゝ志ゝんぐえの
あくへいるこあゝらぐをみゝうあゝ
しとすもゝきそのきてゝうぐれ
うゝりしくぐありゐのひとゝぐれ
らゐのりきをゝまづぬゝうぐの
ゝるもゝこゝとあゝれのすこそのきて
やゝうゝかゝうゝえれとゐそ
とゝりあうゝしのの
やまひとゝりてゝうの
のゝことあゝらゐ
ざりしゝうぐ
ひとゝぐゝ
ざゝよあゝひ
ひゝとゝぐ

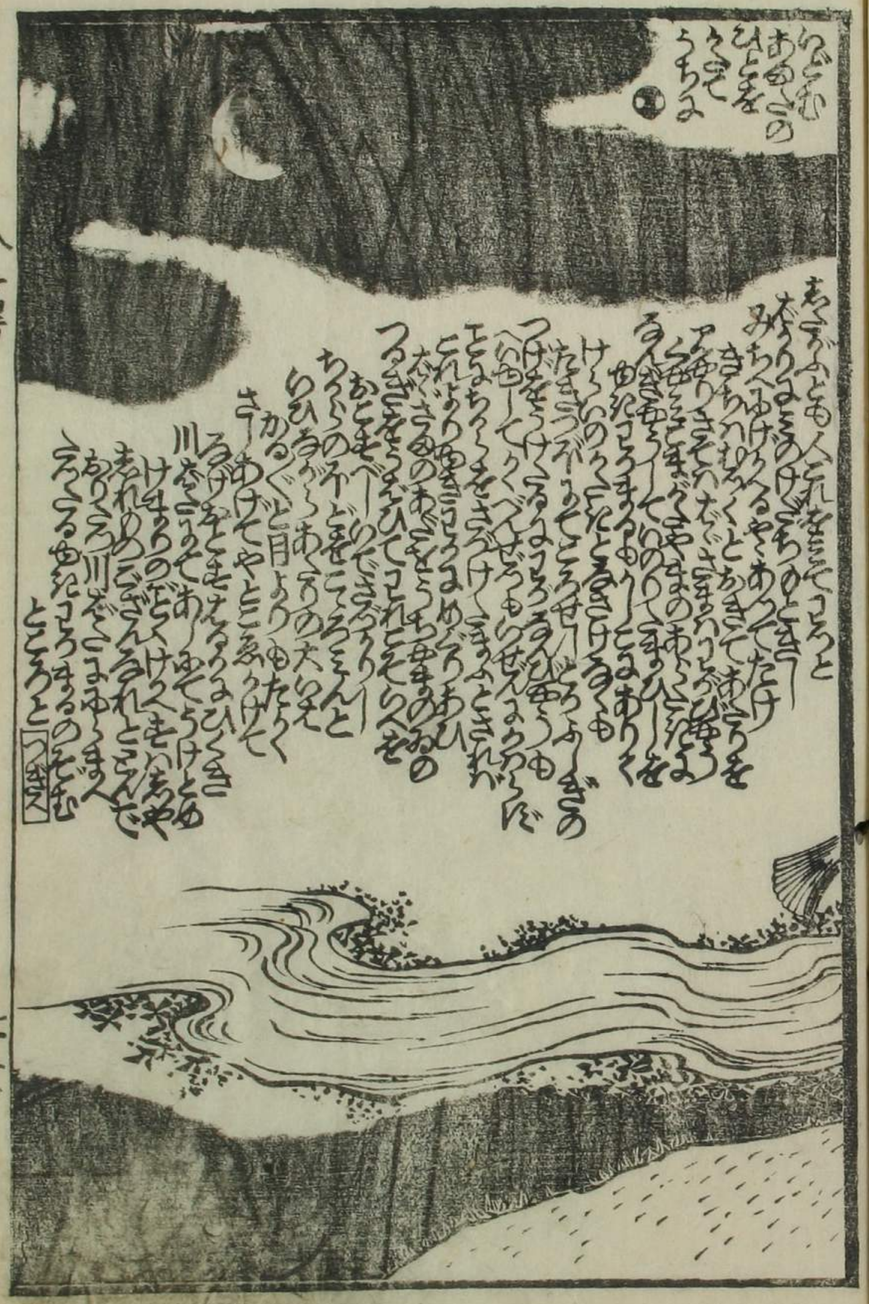
雪

郡
雪
紅

十
と

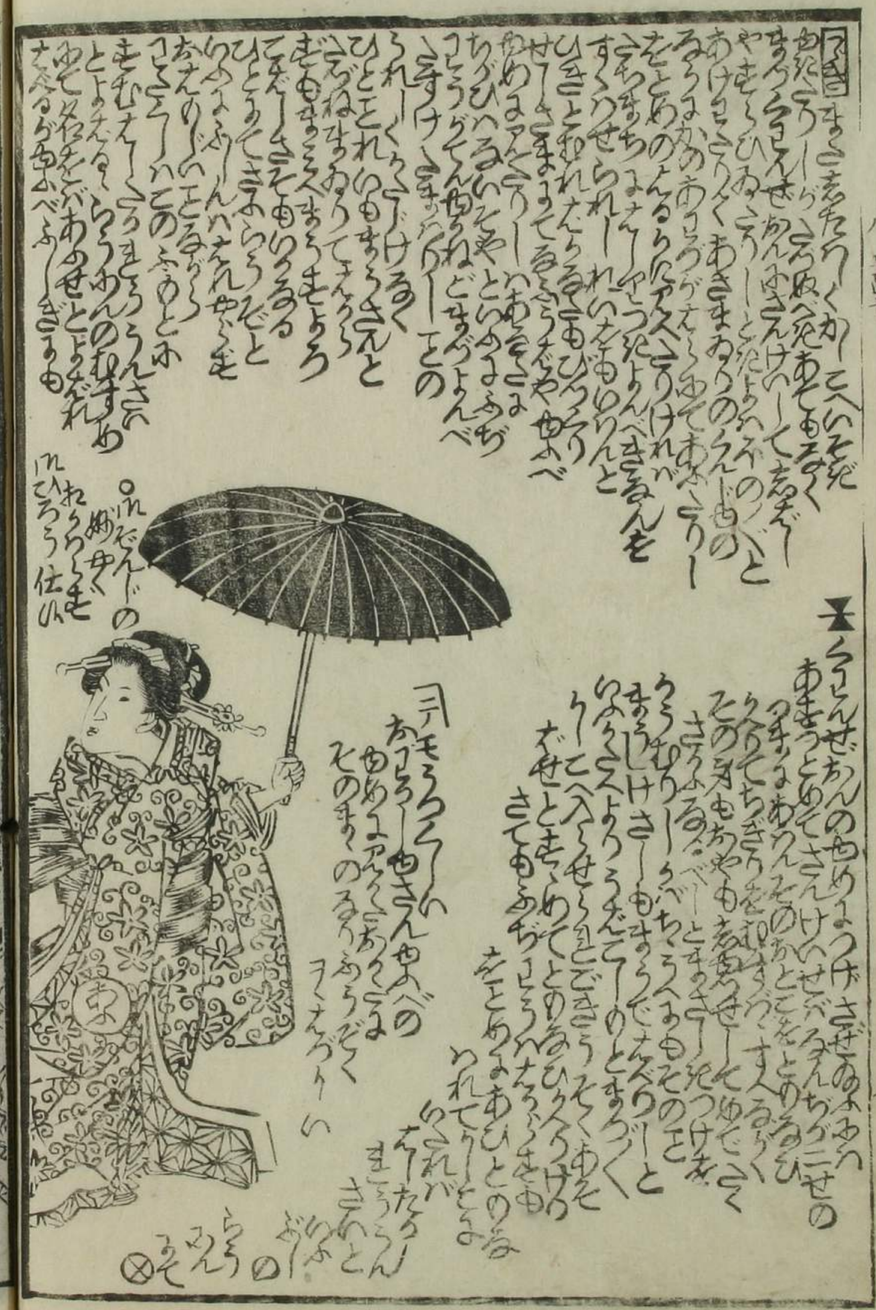
雪
駒形山の鬼神ヶ滝
雪若丸
藻屑
婆
害を

神



雪
牛

仙女香
美玄香
南一丁め
坂本氏製



忠
義
君
豊
中
世

天保巳春新版書林地本問屋仙屋崔堂

傾城水滸傳第十二編 歌川国安画
百人一首童講譯 柳亭種彦校 歌川国安画
年中行事五節供稚講譯 山東京山作 歌川国安画
浮世説 全四冊 歌川国貞画
三國志畫傳第五編 全八冊 歌川国安画
八藪藤王傳記 全六冊 二代目十返舍一九作 歌川国貞画
國字水滸傳第十二編 全四冊 柳亭種彦校 歌川国芳画
花街雀竹夜遊 前四冊 後六冊 柳亭種彦校 歌川国貞画
霞帶人如月 全六冊 西川徳升作 歌川国安画
星下梅花咲 全四冊 柳亭種彦校 相州綾部作 歌川国貞画
偐紫田舍源氏 柳亭種彦校 歌川国貞画
春遊霞彩色 柳亭金水作 全四冊 歌川国貞画

書物錦繪 江戸通油町
團扇地紙 問屋鶴屋喜右衛門

四中
四中
四内